

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191100213		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホームあさひの家千歳		
所在地	千歳市北陽5丁目4-8		
自己評価作成日	令和6年2月1日	評価結果市町村受理日	令和6年3月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0191100213-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・開設して、4年が経過しました。開設当初より、コロナ禍での運営、入居者様、ご家族様へご不便をお掛けしての運営が続いておりましたが、昨年は、市外までドライブレクにも行く事ができました。コロナ禍で、制限を受けながらの運営状況では、ありましたが、職員の発想を取り入れて、入居者様に楽しんで頂けるように、季節感を感じとれるレク企画の充実を図り、活動の様子は、ホームページのスタッフブログを最大限に活用して、ご家族様、地域の方々にもご周知いただけるよう、努めております。
 ・アピールしたい点については、介護施設であっても、温かみのある、家庭的な雰囲気を感じ取れる様に意識しております。開設時より、毎年行っている、「手作りのみそ作り」については、恒例行事として、入居者様も職員も楽しみながら、大豆を潰して、丸める作業を行い、完成した手作りみそは、日々のお食事で楽しんで頂いたり、調理レクとして活用したり、夏まつり時の食材として、皆様に楽しんで頂いております。グループホームであるので、日常の生活が主体には、なっておりますが、日々の入居者様の生活が、退屈でマンネリ化しないように、職員も試行錯誤を重ねながら、日々努めさせて頂いております。
 ・経験値の浅い職員もいる為、教育、育成、指導についても、法人と共に、勉強会の機会を増やし、知識の向上に努めております。介護職員不足、次世代の担い手確保の為に、法人と共に、成長させて頂いております。
 ・「身体拘束廃止に向けた取り組み」については、事業所独自に行っている、職員に取って、身体拘束の苦痛を体感できる研修を行い、高齢者虐待、身体拘束廃止に向けた取り組みについても、力を入れております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣にドラッグストアや、車で数分の距離にわき水や林間を活用した遊具がある防災の森、病院等のあるエリアに位置する開設4年目の事業所である。2ユニット2階建て内部は清潔感がある。リビング内の必要な部分に移動式手すりを設置し、利用者の動作補助となっている。来年度の地域との連携では、町内会活動、事業所行事を通じた交流やボランティアの受け入れを目指している。食事はユニットごとに職員が献立し手作りで提供しているため、利用者からの希望への対応が早く、当日や翌日に要望の汁物、副食が食卓に上り利用者の満足度につながっている。毎年、利用者が主体となる味噌作りを行っており、今年も1人ひとりが鮮やかな手捌きを披露している。職員の着想豊かな季節行事食や手作りケーキ類も楽しみとなっている。好みの生花を選んでもらい自分流の押し花作りをアプローチしたり、趣味の番組を居室内だけではなく、居間の大画面テレビで堪能できるようにするなど、個々の心情を推しはかり日常を支えている。職員研修は年間計画を立て、法人のバックアップの下に多様な勉強会を実施している。運営推進会議では、ヒヤリハット・事故報告、職員状況等も詳細に報告し、運営に関する透明性が窺える。利用開始前に痙攣発作が頻回で服薬していた方が、利用開始後に好きなKポップの動画鑑賞や職員の寄り添いにより、辛い発作が無くなり表情も穏やかになった事例もある。利用者の個性を尊重した介護支援に日々尽力している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fコスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念を目につく所に掲示し、ユニット会議等職員が集まる時に唱和をして意識付けをしている。職員一人一人にホーム理念について自身が思うこと、心がけていることを記述して提出している。	地域密着型サービスの意義や役割を盛り込んだ理念を標榜し、事業所内要所へ掲示している。理念についての考え等を職員個々にレポートしてもらい、目指すところの理解や意識づけに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ感染症が5類になったが、いまだ感染がおさまらないため控えているが、町内会に入会したため、これから交流をしていきたい。「あなたを守る110番の家」の活動に参加している。	町内会への加入が実現し、町内会活動、事業所行事を通じた交流やボランティアの受け入れを目指している。地域にある寺院の節分会に利用者と職員が参加した。子ども110番の安全支援活動に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナ感染症が5類になったが、町内会長宅へ管理者、法人職員共にご挨拶に伺ったり、新聞や運営推進会議の資料をお届けしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症が5類になり、地域包括支援センターの方や、ご家族が参加していただけるようになってきた。	運営推進会議は参集にて開催し、家族の出席も得ている。利用者状況、事故・ヒヤリハット、活動状況、職員状況等を詳しく報告し、参加した構成員からの意見を議事録に記載し、関係者へ送付している。	参加できない家族や他の構成メンバーから、質問・意見・要望等を聴取し、運営推進会議に反映する計画もあるので、実現に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故の報告などを行い、運営推進会議の資料を提出している。日々疑問点などの問い合わせなどこまめに報告を行い連絡を取り合っている。	市の担当部署とは、適正な運営の維持に向け、協働関係を築いている。介護保険制度上等の案件で質問等を行い、説明や助言を得ている。感染症対策では保健所と連携し利用者の健康管理支援に努め、防災訓練では消防署の協力が得られている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束廃止に取り組んでいる。高齢者虐待防止委員会も兼ねて活動している。	身体拘束廃止等の適正化のための指針に基づき、3か月に1度、身体拘束廃止委員会を開催している。委員会から留意すべき事柄を標語にて提示し、意識づけしている。「認知症ケアから考える」「高齢者虐待防止の視点」等の内部研修を実施した。玄関は防犯上の理由により昼夜施設している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修や外部研修にて身体拘束に関する研修を行っている。特にスリーロックの研修に力を入れている。		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fコスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度権利擁護に関する研修を行い、入居者の尊厳を保ち、制度への理解を勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に書類をお渡しし、内容を確認して頂いた上で、入居当日に細かく説明をしており、都度、不安や疑問点を尋ね十分に話し合い、理解と納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話やラインまた面会時に近況報告の際に意見を頂戴している。頂いた意見に関しては速やかに検討し改善対応している。また玄関にご意見箱を設置してご意見を募っている。	利用者から「三平汁・たくわんを食べたい」など意見が上がった際は、随時、希望に応え、「帰りたい」の主訴には、落ち着いた言葉を伝えたり、家族の協力も得ている。調査時点での家族からの外泊の要望には感染対策上、一時帰宅に変更するなどして対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と個人面談も実施し、日常的に意見を聞きやすい環境づくりをしている。速やかに話し合い職員の意見を反映できるように努めている。また法人事務局からも出向いて対応してくれる。	今年度の個人面談は必要時に実施し、法人事務局担当者も随時、面談している。職員が話しやすい環境を整え、日頃から質問や相談に応じている。ユニット会議等で出された意見は速やかに検討し、業務改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	令和5年度より人事考課制度が整備され、令和6年度より本格的にスタートされる。管理者・各ユニットリーダーによる個人面談・日頃の勤務状況などが評価される。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、ZOOMIによる外部研修を行っている。内部研修は、月ごとに全職員が順番でテーマに沿って自分たちで研修資料を作成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の介護施設との外部研修(ZOOM)等で意見交換の機会がある。コロナ感染症が5類になったので、外部との交流を増やしていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fコスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、ご本人が安心・安全に生活が送れるように不安やニーズを十分に聞き入れ信頼関係を築けるように努めている。 入所後もご本人の意見に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を始めるにあたり入居者様、家族の方の意見を十分に聞き、安心・安全に生活していただけるように努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の状況を見極め何が必要か、医療機関、他の専門機関等の意見も参考にし支援とサービスを取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所前にライフヒストリー等を記入いただき入居者様の趣味や趣向を活かして対応をしている。 可能な限りご自分で身の回りのことをやっていただき出来ない事サポートを心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限りご家族の要望も取り入れ、生活をしていただいている。相談をしていただきやすい関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ感染症が5類になったため、相談に応じて感染対策をとった上で外出をしていただいたり、居室での面会ができるよう、支援に努めている。	家族面会が再開され、居室にて対応している。家族と一緒に墓参や一時帰宅、遠方に住む親族との面会、馴染みの寺院の節分会に出かけている利用者もいる。手紙や電話も希望に応じて都度、対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の人間関係が円滑になるように職員が見守り、関わり合い支え合えるように努めている。レクリエーションも全員で参加していただけるように努めている。トラブルになりそうな時は職員が間に入り対応している。		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fコスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望があれば、サービス利用終了後も必要に応じ相談や支援を行っている。 サービス終了後も連絡をしていただけるような関係性を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人やご家族に聞き取り、希望や意向の把握をケアに役立ててケアプラン作成をする時に役立てている。聞き取りが困難な時はご家族と相談をしながら検討をしている。	利用開始時に家族からこれまでの暮らしの様子や趣味・嗜好等の情報を得ている。職員は、本人が表出しやすい聞き取り方を工夫し、把握した意向や希望、要望等を支援に結びつけるなどして反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族にライフヒストリーを記入してもらい、また以前の施設等の情報をもらい職員が把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態を把握し、その度に職員間で情報共有しサービス記録に記入をしたり、送り等で現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態の観察を行い小さな変化にも職員間で報告、連絡、相談を行い担当者がまとめ3か月に1度(必要な時は随時)担当者会議を行い、その時々々の現状に応じた介護計画を作成している。	毎月のユニット会議で、利用者の状態変化や留意事項を示し、居室担当職員が中心となりモニタリングしている。関係者の意見等をサービス担当者会議にて検討し、現状に即した介護計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録に内容の実践、取り組み、気づき等を記入し職員同士で情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。またサービスのNo.を記入して実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを行うにあたり一人ひとりに合ったサービスの提供を心がけ既存のサービスに捉われず、個々に合ったサービスの提供に努めている。状態の変化時も職員で共有して柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	フォーマルな社会資源は地域包括センター等と連絡を取り合い、運営推進委員会にも出席してもらっている。インフォーマルな社会資源はご家族のサポートを受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には全員が協力医療機関などの往診を受けているが専門医の受診など入居前からのかかりつけ医受診が継続している場合もある為、ご家族と本人の意向も確認して対応している。協力医療機関には受診の結果を随時報告している。	協力医療機関による2週に1度の往診、歯科は必要時に往診を受けている。2週に1度看護師が健康管理支援に訪れている。利用契約時に受診支援について説明し、意向確認を行い個別に対応している。居宅療養管理指導書を得ている。	

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fコスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隔週の医療連携での報告、相談をして体調不良等不安な事があれば電話連絡し助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関の相談員と連絡を取り情報交換を行っている。入院した際は早期退院に向けて協力体制を築き、入院中も連絡をとりあい、病院関係者との関係作りにも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時にリビングウィルの書面により確認している。その後、状態が変化した際は再度意向を確認、医療機関・ご家族・職員の話し合いを持ち、本人、家族が後悔しないような支援ができるよう配慮している。	「重度化した場合における対応に係る指針」「緊急時の対応についての事前確認書～リビングウィル」を説明し同意を得ている。医師の判断に基づき、関係者間で協議し今後の対応を取り決め、看取り支援の場合は、看取り指針にて同意を交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルがあり、研修もしている。急変時の緊急ファイルを準備しフェイスシート、保険証のコピー、薬情報をファイリングしている。また緊急連絡網を活用し指示を早急に仰ぐことができる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の消防訓練は年2回行っている。災害時のマニュアルも用意している。自然災害からの火災発生時の訓練も行っている。指定避難場所は各階・玄関にも掲示している。	令和5年7月防災設備会社の協力を得て日中・火災を想定した避難訓練を実施し、12月は夜間・地震・火災想定避難訓練を消防署の指導の下に実施した。災害備蓄品、協力者を確保している。自然災害発生時における業務継続計画は策定済みである。	指定収容避難場所への避難誘導と避難生活を送る場合の想定される課題等の抽出や対策について、運営推進会議を通じ、協議や情報共有に取り組む考えを示しているため実現に期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スリーロックの研修として言葉かけの研修は何度も行っている。また毎月の目標などで職員に呼びかけている。	慣れ親しんでくると距離感が縮まり、馴れ馴れしくなる接遇の予防として、内部研修の実施や委員会が目標を提示し、意識化を図っている。	現実に似せた場面で、ある役割を模擬的に演じるロールプレイング研修も受ける側の体験を踏まえた学びの機会となることから、実施に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望・想いを発言できるよう、話しかけをしている。自己決定が出来るように努めている。例えば服を着替える時は声かけをして自己決定をしてもらう。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくご本人の意思に沿って支援している。例えば熱い飲み物と冷たい飲み物の希望をとることもある。入浴は順番が決まっているので希望に沿えない事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの時などは自己決定してもらって好きな服を着ている。以前より使っていた化粧水、化粧品などが無くなるとご家族に依頼をする支援をしている。		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fコスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立もなるべく同じものが出ないように気を付けている。食事の盛り付けや片付けと一緒にして入居者の力を引き出すようにしている。食べたいものの希望を取り入れることもある。	職員がユニットごとに献立し調理している。毎年恒例の手作り味噌でちゃんちゃん焼きをしたり、鯉のぼりに見立てた稲荷寿司などのデコランチ、祝膳は利用者に人気の刺身や天ぷら、赤飯、手作りケーキを提供している。食事づくりを一緒にする機会が豊富である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日に摂取した食事量、水分量を記録している。一人一人に合った形態Dえ食事を提供している。食事や水分量の声かけや食事介助なども行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、各食事の後の口腔ケア、入床時の義歯をはずし洗浄・消毒などのケアを行っている。また自分で磨けない入居者には職員が口腔ケアを行っている。毎日歯ブラシ・歯磨きコップの消毒も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレで排泄をしてもらえるようにタイミングをみてトイレ誘導の声かけを時間を決めて1日数回行っている。	介護記録に排泄状況を記録し、排泄間隔や内容を確認し、排泄行動で利用者が自立していない部分を介助している。トイレでの排泄を支援し、夜間帯、立位困難な利用者はベッド上で交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は最終排便の把握をして個々に牛乳や食物繊維の多い飲食物の提供をしている。また協力医と連携をとり、下剤などを処方してもらい便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は順番制となっているが、週に2回以上を基準に本人と時間などを相談している。また拒否がある場合は声かけに工夫を行っている。体調不良や拒否強い場合は、次の日に入浴できるように配慮している。	午前から午後にかけて対応し、利用者1人ひとり湯を変え、浴槽もその都度清掃している。入浴の声かけからドライヤーまでの流れを同じ職員が支援し、利用者が昔話を話すなど、会話が増す機会となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の身体状況に合わせ、希望があれば日中に臥床時間を設け休息ができるように支援している。入床時も本人の希望により休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方時の薬情報やお薬手帳などで薬を把握している。また服用時には必ず数を数えて漏れている薬がないかを確認している。便の回数によっては下剤を抜くなどの配慮に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴などを把握し、食事後の片付け、洗濯物干し、畳み等の手伝い等の役割や、カルタ、風船バレーなどのレク、音楽鑑賞等の気分転換の支援を行っている		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fコスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ感染症が5類になっているので、相談があれば感染対策をとってご家族との外食などを行うことができる。 年に一度はドライブレクを実施している。 通院時はご家族と外出をしている。	天候のよい時期は近隣の公園や周辺を散歩したり、プランターに植えた花・野菜の手入れやシャボン玉をするなど、戸外に出ている。桜見学や少人数に分け恵庭の道の駅に行きカフェで休憩するなど、ドライブ外出を支援した。家族と外出する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの方針で金銭管理は行っておらずご家族対応となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望があれば電話や手紙のやり取りができるよう支援している。また個人で携帯電話を使用して家族と連絡をとっている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度、室温、光などを調節している。リビングには季節感を取り入れた物を飾り居心地よく過ごせるよう工夫している。 リビングには入居者様で作った壁画などを掲示している。	リビングにはダイニングスペースの他にソファコーナーがあり、利用者の身体状況に合わせ移動式手すりを配置している。利用者と職員と一緒に制作した季節感ある作品が飾られている。日めくりカレンダー、時計も利用者の目線に配慮し設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士でリビングで過ごしたりソファでテレビを観たりしている。独りでテレビを見たい方には居室に環境を整える配慮をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れていた家具、寝具等を持って来てもらい安心して生活できるよう支援している。また転倒防止のために動線の確保に努めている。	居室にはナースコール、照明器具、パネルヒーターが備えられ、馴染みの家具や調度品、愛着のある物が持ち込まれている。濡れタオルを用い、乾燥防止対策を講じている。ADLに応じ、ベッド、筆筒、テレビを移動し、動線の確保や安全面に留意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室やトイレ、洗面所が分かりやすいように目印を付け工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191100213		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホームあさひの家千歳		
所在地	千歳市北陽5丁目4-8		
自己評価作成日	令和6年2月1日	評価結果市町村受理日	令和6年3月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0191100213-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・開設して、4年が経過しました。開設当初より、コロナ禍での運営、入居者様、ご家族様へご不便をお掛けしての運営が続いておりましたが、昨年は、市外までドライブレクにも行く事ができました。コロナ禍で、制限を受けながらの運営状況では、ありましたが、職員の発想を取り入れて、入居者様に楽しんで頂けるように、季節感を感じとれるレク企画の充実を図り、活動の様子は、ホームページのスタッフブログを最大限に活用して、ご家族様、地域の方々にもご周知いただけるよう、努めております。
 ・アピールしたい点については、介護施設であっても、温かみのある、家庭的な雰囲気を感じ取れる様に意識しております。開設時より、毎年行っている、「手作りのみそ作り」については、恒例行事として、入居者様も職員も楽しみながら、大豆を漬して、丸める作業を行い、完成した手作りみそは、日々のお食事で楽しんで頂いたり、調理レクとして活用したり、夏まつり時の食材として、皆様に楽しんで頂いております。グループホームであるので、日常の生活が主体には、なっておりますが、日々の入居者様の生活が、退屈でマンネリ化しないように、職員も試行錯誤を重ねながら、日々努めさせて頂いております。
 ・経験値の浅い職員もいる為、教育、育成、指導についても、法人と共に、勉強会の機会を増やし、知識の向上に努めております。介護職員不足、次世代の担い手確保の為に、法人と共に、成長させて頂いております。
 ・「身体拘束廃止に向けた取り組み」については、事業所独自に行っている、職員に取って、身体拘束の苦痛を体感できる研修を行い、高齢者虐待、身体拘束廃止に向けた取り組みについても、力を入れております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和6年2月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員、意識付けを行えるよう、ユニット会議にて運営理念、ホーム理念を唱和している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今後、事業所の夏祭り等で地域との交流を図れるよう、努める。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これまではコロナウイルス感染症対策の為、実施できていないが、5類へ引き下げられたので、ホームのお便りの他、ブログ等を通して地域貢献に活かしていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対策が5類に引き下げられてから、運営推進会議にご家族様や地域包括支援センターの職員の方にご出席頂き、ご家族様より寄せられている意見など取り上げてサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	細目に運営推進会議への参加、事故報告等、連絡を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止委員会」を3ヶ月に1度開催し、身体拘束廃止に向けて取り組み、職員の意識の向上に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止に努められるよう、何かあれば職員間での情報共有に努めて、虐待防止についての研修を設けている。		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の尊厳や意見を保ち、内部研修の機会を設け、制度への理解を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様へ入居前に書類をお渡しし、内容を確認して頂いた上で、入居当日に詳細を説明し、不安や疑問点を都度尋ね、十分に話し合い、理解と納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	頂いた意見に関しては、速やかに検討し改善対応しており、電話や面会時にご家族様へ近況報告の際に意見を頂戴している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との個人面談を適宜実施しており、事業所内で解決できる内容は役職者で話し合い、今後の業務に反映できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	改善できよう、職員が意見を言いやすい環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を受ける機会を確保していただいているが、外部研修もZoomで受ける機会も増えてきている。また、資格取得制度もあり、対象者には声掛けを随時行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染症が、5類に引き下げられたので、他事業所や多職種と交流ができる機会作りを行っていききたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様と信頼関係を築けるよう務めており、安心した生活が送れるよう、不安やニーズを十分に聞き入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様、ご家族様の意見を十分に聞き、利用開始にあたり、ニーズを引き出せるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の状況を見極め、その方に何が必要かを職員間で情報共有を行い、医療機関や他の専門機関等の意見も参考にし、支援やサービスを実施している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自身で行える事は可能な限り行っていただき、できない事はサポートし、入居者様の個性や生活歴を尊重し、寄り添いながら過ごせる信頼関係作りにも努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様が安心して過ごせる様、ご家族様へ随時近況報告を行い、場合によってご家族様の協力を得て入居者様をサポートできる関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症が5類に引き下げられてから、30分間居室での面会も行っており、ご家族様より「ゆっくり話せて良いですね」とお言葉を頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が見守り、入居者様同士が関わり合いながら人間関係が円滑になるよう、努めている。		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、サービス利用終了後でも相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の希望や思いを傾聴し、入居者様ご自身の意向に添えるように努め、困難な際はご家族様へ支援を依頼し、ご本人本位で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴や今までの暮らし方を把握し、生活環境を整え、安心して生活が送れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身状態を把握し、職員間で都度、情報共有を行い、サービス記録に記載する等をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームケアとしてケアカンファレンスを行い、その時々々の現状に応じた介護計画を作成し、日頃から心身の状態を把握し、小さな変化にも気づけるよう職員間で情報共有を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス記録にその時の支援内容の実践や取り組み、気づき等を記載し、介護計画の見直しに活かす為、職員間で情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアを行うにあたり、個人にあったサービス提供を心掛け、柔軟性を持ち、マニュアルに縛られず、個々の希望に沿ったサービス提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス流行も落ち着いてきているので、地域資源活用を行っていききたいと思う。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様全員が提携医療機関等の往診を受けているが、専門医の受診等、入居前からのかかりつけ医への受診が継続されている事もある為、ご本人様とご家族様の意向も確認している。		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関への報告・相談を隔週行い、体調不良等の不安があれば随時電話連絡にて助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関の相談員と連絡を取り、情報交換を行ったり、入院時は早期退院に向け、協力体制を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に意向の確認を行い、その後、状況が変化した場合、再度意向を確認し、ご本人様・ご家族様とも、今後の生活に後悔しないような支援ができるよう配慮している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルがあり、その後、急変時ファイルを用意し、フェイスシートや保険証のコピー、薬の情報をファイリングする事で、対応時に焦らないように準備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震と火災の想定で避難訓練を行ったが、水害の想定は行っていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は「ケアをしている」のではなく、「お世話をさせて頂いている」の精神で、入居者様一人一人の人格を尊重し、性格等を把握し、プライバシーや誇りを損なわない対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定できるよう努め、気兼ねせず、ご本人様の希望や想いを発言できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の意思に可能な限り添って、支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好きなものを身に付けて頂いている。		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事ができるように支援し、季節感を味わっていただく為、その季節の物を提供したり、お祝い事で献立も工夫している。また、できる限り職員と一緒に食事の準備や片付けを行い、入居者様の力を引き出すようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事と水分摂取量を記録し、職員間で情報共有できるように、個々の好みや苦手な食べ物・飲み物を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っており、就寝前に義歯を外して頂き、義歯ケースで洗浄し、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握する為、職員間で情報共有し、介助が必要な入居者様には、ご本人様とご家族様の同意を得た上で支援やトイレ誘導を行っている。排泄を失敗した際は、自尊心を傷つけないよう羞恥心やプライバシーに配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄日をサービス記録に記載し、なるべく自然排便ができるよう、野菜中心としての食事提供に取り組んでいるが、便秘傾向な方は、主治医へ相談し、下剤を服用して頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回、入居者様と相談をし、時間帯を決定している。好まない方へは、声掛けや対応の工夫をし、タイミングを見計らい支援に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員が個々の睡眠パターンを把握し、入居者様が日中、一人になりたい時やお昼寝をしたい時には、自由に休める環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬リストで薬を確認し、服薬介助を行っている。不明点がある際は、薬局へ確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴等を把握し、食後の片付けや洗濯物畳み、干し等のお手伝いやレクリエーションを行い、気分転換の支援を行っている。		

グループホームあさひの家千歳

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fライラック)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	必要に応じて、ご家族より相談を受けたら、病院受診以外でも、時に外出している。今後は、ご家族様や地域住民の方と協力しながら、外出支援を行っていききたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所の方針で金銭管理は行っておらず、ご家族様の対応となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度や室温、照明の明かり等を調節し、リビングには季節感を取り入れた装飾物を飾り、居心地よく生活していただけるよう工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士、リビングで過ごされたり、一人でテレビを見たい方には環境を整える配慮をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や寝具等は、使い慣れていた物をできるだけ持参していただき、安心して居心地よく生活ができるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身の居室、リビング内のトイレや洗面所がわかりやすいように目印をつけて工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホームあさひの家千歳

作成日：令和 6年 3月 7日

市町村受理日：令和 6年 3月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	○運営に関する利用者、家族等意見の反映について ・令和5年、5月以降、コロナ感染症が、5類に移行され、運営推進会議への出席の依頼を行って、出席頂けているご家族もいる状況ではあるが、参加できていないご家族の意見等が、運営推進会議で、反映されていない。	・運営推進会議に出席できていないご家族の意見・要望を確認し、意見等を取り入れて、事業所の活性化に繋げる。 ・事業所職員だけの生活の支えではなく、ご家族様の意見を反映する事で、利用者が居心地よく生活が継続的に出来るよう、支援する。	・運営推進会議の資料・報告書に、事業所運営に関する、アンケート、ご意見・要望等を自由に記載頂けるよう、匿名でも返信が出来るように、返信用封筒を同封して、各ご家族の意見等を把握し、課題を抽出し、後の会議に内容、回答を開示していく。課題の内容次第では、他のご家族様の意見も確認する。	1か月
2	35	○災害対策について ・万が一に備えて、指定収容避難場所への、避難誘導と、避難生活を送る事態になった際の避難誘導時、避難場所での避難生活に於いて、想定される課題の抽出や、対策方法について、事業所内で協議されていない為、家族に具体的な開示が、できていない。	・大規模な災害が発生した際の避難場所についての家族への周知。 ・指定収容避難場所への誘導の仕方・避難場所で、想定される、具体的な課題を明確的に抽出して、運営推進会議を通して、地域、家族へ共有する。	・災害対応体制時の統括チームで、協議を行い、避難場所での、生活課題を抽出する。 ・抽出した課題を书面化し、運営推進会議などに、情報共有を行う。	3か月
3	36	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保について ・慣れ親しんでくると距離感が縮まり、人格の尊重、接遇面の低下に繋がることが懸念される。	・事業所の理念を根底に、利用者的人格を尊重し、全職員が接遇面の向上を、意識して利用者の生活を支援することができる。	・利用者との関り、業務中の職員間の関りの中で、現実場面を想定した、ロールプレイング研修の実施。	3か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。